

柳島ポンプ場見学会 ‘20/11/06

ここ柳島地区は西に相模川を臨み、北及び北西に沿って小出川が流れ、海岸寄りには松尾川を抱える地勢である。標高も低いことから大雨の際にはいち早く流域の雨水を排出することが求められる。

「柳島ポンプ場」はそのような大雨の災害を未然に防ぐ施設として昭和 41 年に稼働し、平成 19 年の増設を経て、現在排水ポンプ 5 台、1,200t/分の能力を持ち、市内では今宿ポンプ場と並ぶ大きさである。

排水能力がどれくらいかという、記憶に新しい昨年秋の台風による豪雨時は、5 台中の 4 台が稼働して対応したとのことである。「柳島ポンプ場」が雨水を排水する対象区域は、ここ柳島全域と松尾、浜見平及び隣接する南湖地区の一部を流域とする 193ha の区域である(図 1 参照：白部分が対象流域)。

今回、柳島地区の防災リーダーが主体になり、「柳島ポンプ場」を見学して防災施設の見識を深めた。場内の案内と説明は茅ヶ崎市役所“下水道河川部”の 6 名の方々に対応いただいた。



図 1：柳島ポンプ場の排水区域と雨水幹線の経路



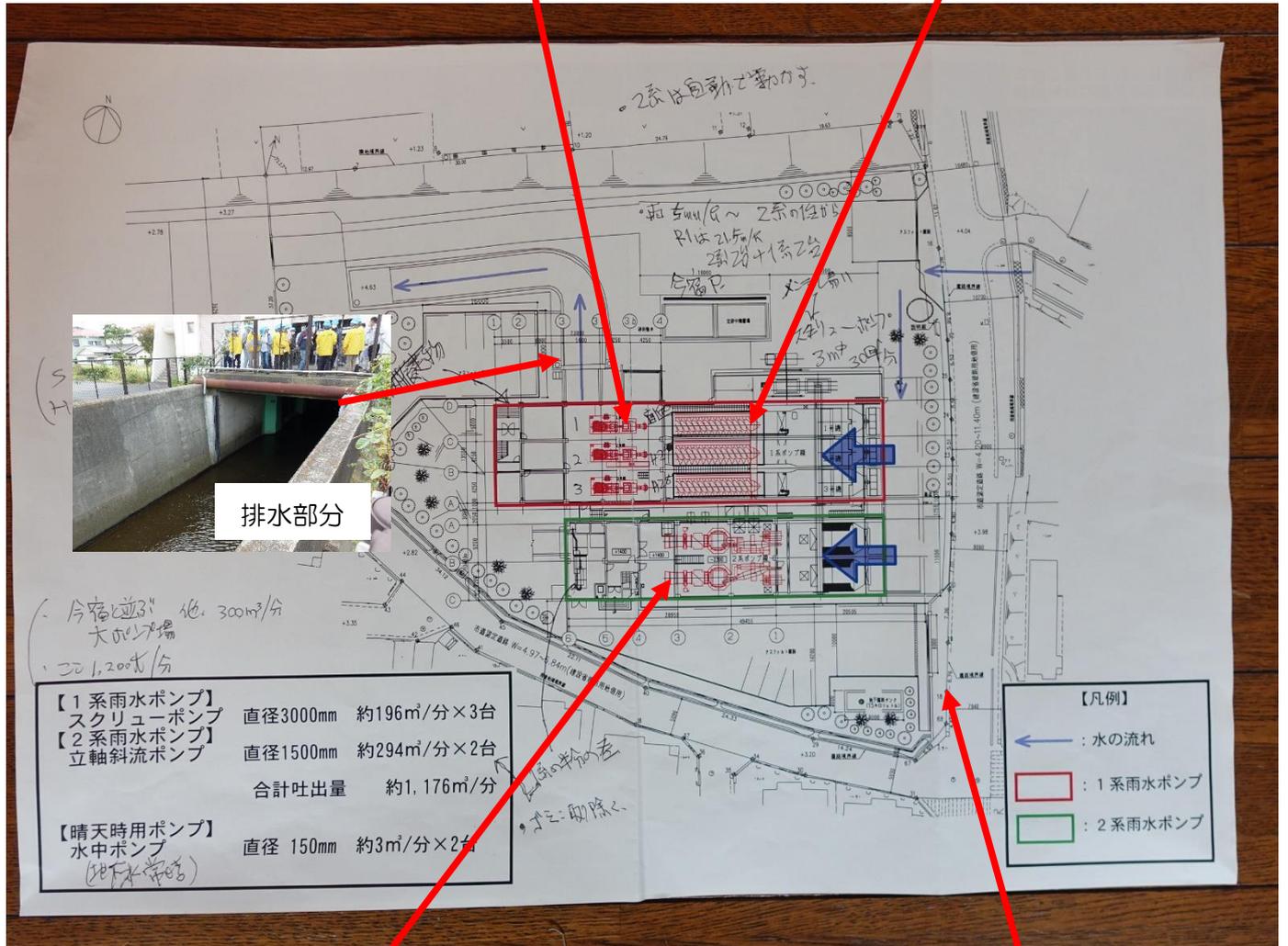
始めに概要説明



1系のエンジン。3台ある



1系のスクリュポンプ



2系のエンジン。2台



ポンプ場入り口

図2：ポンプ場レイアウト

